

食品機械向け表面処理拡大

フロロコート

フロロコート（埼玉真川越市、諏訪部充弘社長）は、新潟事業部（新潟県長岡市）に食品製造機械や調理器具のコーティング加工設備を追加導入した。投資額は2500万円。食品関連機器メーカーから増える表面処理需要への対応で、生産能力は現状比で約6割高める。受注拡大に合わせて人材採用にも力を入れる。同社は高機能コーティングを強みに、幅広い業界の機器や部品の表面処理を手がけるが、祖業の食品分野向けでさらなる成長に挑む。

フロロコートはフッ素樹脂コーティングを、釜、餅つき臼などの日本ですべて提供したコーティングを手がけてメーカー。新潟事業部には、食品製造機械や液体製造装置の調理器具へのコーティング部分や、半導体コーティング需要の増加など、液晶製造分野の電気メッキ治具、大型の攪拌（かくはん）羽根、角コーティングの前処理能

新潟に設備、原点回帰で成長

力を高めることで、ボルトネックの解消につなげた。



立地も関係し新潟での食品事業の需要が伸びている。

今回は新潟事業部に「高い耐久性」など同社の特徴が顧客の工場にコンプレッサ・プラスチック溶接装置を導入した。新潟県は米どころで、食品関連産業が集積する。加えて、「付着しにくい」の優位性もあり、新潟語る。

（川越）

県内の食品関連企業からの引き合いが堅調に推移しているという。

フロロコートは創業当初、フライパン向けコーティングを主力事業としてスタートした。その後、時代の変化に合わせて、自動車部品や半導体製造装置、航空宇宙分野へと事業領域を広げてきた。一方、近年は食品分野をあらためて重要な成長領域と位置付けており、今回の投資も「原点回帰」の取り組みの一つとしている。

諏訪部社長は「成長が見込まれる食品分野への投資を積極化することで、安定した事業基盤の構築を目指す」と